



内子座 藝於遊



壁補強用ポリカーボネート板取付

令和8年9月14日、今年のメイン工事ともいえる壁の補強板取り付けが始まりました。ここに至るまでにはいろいろな試行錯誤が繰り返されています。詳しくはまたの機会にご紹介したいと思いますが、真壁づくりの内子座の壁に、12mmの厚みがある補強用板を取り付けるには困難なことが多く、モックアップを作成し、取り付け方について関係者が協議を重ねながら、今日に至りました。

取り付けのためには、壁側の準備、ポリカーボネート板側の準備と、それぞれが様々な工程を踏んで来ましたが、いざ、取り付ける段でも、真鍮にくっついてしまわないよう、壁の真ん中にくるように慎重に取り付けられていきます。壁の取付作業を見ながら、思わず胸アツ・・・、というのは私だけでした。みなさん真剣です。そして、補強用ポリカーボネート板は、現場代理人の谷岡さんによると411枚とのこと。確かに、感傷に浸っている場合ではありません。みなさん、がんばってください～！



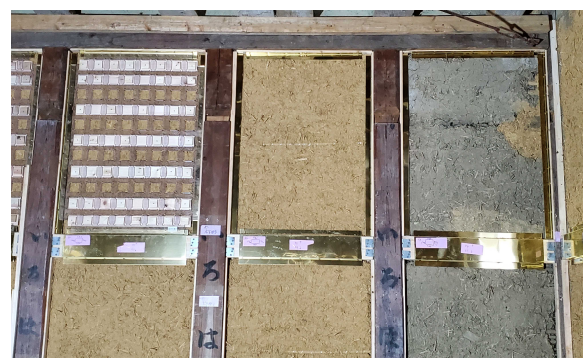
補強用ポリカ板取付の様子(9月14日撮影)



▲写真上左:補強板のおさまりが大丈夫か確認中。最初のビス止めが肝心です。

▲写真上右:補強板 NO.1 が取り付けられたところ。それぞれの板には番号と取り付けられる場所が示されている。真鍮との間隔もとれていて納まり具合もばっちり。

◀舞台北側の壁の様子。ここから時計回りに補強板が取り付けられていく。



上の写真は、東櫓1階の壁の一部に補強用ポリカーボネート板が取り付けられた様子です。もともと下足場として使われていたこの場所には、柱に“いろは”の墨文字が残ります。右側の黒っぽい壁は大正オリジナルの荒壁。真ん中は昭和の復原修理で塗り直された壁で、左は昭和の壁にポリカ板が取り付けられたところです。大正・昭和・令和が揃った瞬間に思えて撮影しました。保存修理、壁補強について考えさせられます。